

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
訪問調査日	平成19年11月21日
評価確定日	平成19年12月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1471902831		
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ		
事業所名	やすらぎの杜		
所在地	237-0077 横須賀市浜見台2-14-1 (電 話) 046-866-2836		
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(平成19年 11月 12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤 7 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 10.7 人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 300 円 夕食 450 円 または1日当たり 円	昼食 450 円 おやつ 100 円	

(4)利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2 6 名	
要介護3	5 名	要介護4 1 名	
要介護5	2 名	要支援2 名	
年齢	平均 83.1 歳	最低 72 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湘南病院、夏島医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ロケーションは横須賀市北部追浜の高台の住宅地浜見台にある。横浜市南部と近接しているが、ここ追浜の方が早く開け、横浜の発展で南に広がった横浜市南部の方が後発であるため、横須賀市北部と云う文化圏が独自に存在する。横須賀市北部にはグループホームが少なく、地域の有力者が医療、保健、福祉のコミュニティ造りを目指してNPO法人やすらぎを立ち上げ、このグループホームを設立した。浜見台は国道16号線から少し入った静かな高級住宅地である。NPO法人のメンバー、職員、入居者殆どが地元の方であり、ホームの雰囲気も地元の空気と云う。医療の関係でも往診医の夏島医院は地元の開業医であり、開設当初から往診に応じて下さっているが、利用者が入所の際に希望により他の他の地元開業医での往診を受けることも可能である。ホームは坂の中腹にあるので、1階、2階の玄関がそれぞれ坂道に出られる構造で防災の場合、各々階段を使わず道にでられるので安全である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価でのアドバイス事項は、実際は充分に出来ていると思われる衛生管理面ではあるが、外部から来たときに具体的に取り組みが見える文書の類が揃っている方がより望ましいとの指摘に沿い、厚生労働省のマニュアルを基本にマニュアルを作成、配布し研修を実施し、更に管理を目に見える形にとの意で具体的なチェックリストを作成し、毎日チェックする体制を定着させた。苦情吸い上げの為に意見箱も設置した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については基本的には各ユニットでユニット長を中心にまとめ、それを管理者が中心となって各ユニットと一緒にまとめた。評価の必要性についてはカンファレンスで十分に説明し、理解をさせ、プロセスでの気付きや評価の指摘事項については改善計画を立て、担当者を決めて実施して行く予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は横須賀方式で2年弱定期的に実施してきている。横須賀市では来年度からは年4回は各ホーム毎の運営推進会議、あと2回は今まで同様の横須賀方式運営推進会議で推進することが文書で連絡が来ている。横須賀方式は市が空室情報の提供、利用者の啓蒙、勉強会など利点も多かったため、今後は独自の運営推進会議を如何に地域に広げるかを考えて行くと同時に、ブロックとしては、例えば自警組織のような活動として存続出来ないかなど検討して行きたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族は地元の方が多く面もあって比較的良くホームを訪れてくれる。情報提供に関しては、来訪時にお知らせする他、毎月定期的にその月の状況をお手紙でお知らせしている。家族会は年に1~2回実施している。家族会は午前中に行い、会修後はご利用者さんと一緒に、気楽な昼食会を行うような形で行っている。ご家族にはこの家族会の他に餅つき大会などのイベントにもお招きし一緒に楽しむようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 3ヶ月~半年に1回位、小学生が来てくれて、本の読み聞かせをしてくれたり、コーラスのボランティアは毎月1回入ってくれて、発表会の歌を聞かせてくれたり、傾聴ボランティアが来てくれたりしているが、その殆どが地元のひとであり、地域密着は進んでいる。また、遠出や通院には近所の福祉タクシーが利用出来、介護付きで移動してもらっているのも助かっている。福祉タクシーとは地域福祉の情報交換、相互協力体制が出来ている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立者の全員が、地域に根付いた何らかの活動をしている為、横須賀市北部のために役立ちたい意識が強く、地域に強く目を向けた理念をもち、充実した医療、保険、福祉のコミュニティの形成を目指し、それを理念としている。		今後も変わらぬ意欲で推進して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念とは別に介護の理念を掲げ、その実現に向け職員と一緒に日々努力している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校から生徒が、本の読み聞かせと合唱に来ってくれるなど世代を超えた交流が出来てきている。	○	先日老人会の会長と会合を持った際に、今後の老人会との関わりについて有意義に語り合うことができた。行事に参加する事だけでなく、お手伝いできる部分は積極的に参加し、より交流を深めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回は初めての外部評価であった。指摘を受けた点についてミーティングで話し合い改善に努めた。今回も同様に改善に努めて行く。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀方式で近隣3ホームと行政、民生委員を交えての運営推進会議を行い情報交換、意見交換、要望提出を行って来た。横須賀市では来年度からは年4回は各ホーム毎の運営推進会議、あと2回は今まで同様の横須賀方式運営推進会議で推進することが文書で連絡が来ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本年度から市内グループホーム連絡協議会の役員に就任したことで、行政と接する機会が増え、今まで以上に意見交換が出来る。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所する家族は普段の暮らしぶりを多く知りたいと願っているはずなので、来訪時はお出迎えだけでなく、出来る限り側に付き生活状況などを伝えるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見を聞く機会を設けると共に、家族会を職員と家族の距離を縮めるチャンスと捉え対応するようにしている。また、苦情受け付け窓口も設けている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	居室担当を作り各利用者、家族とより密接な関係を作るようにしている。個人面談などで極力職員の不満などを把握し離職を防ぐようにはしているが、やむを得ず離職の際には引き継ぎを必ず行うようにしている。また、各担当だけでなく全スタッフが情報を共有できるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員の確保が困難である為、常に職員全体の介護レベルの向上を急務と捉え、パート職員もOJTだけでなく、外部研修に参加してもらっている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護タクシー会社と強く協力し合っており、通院介助時、外出行事の際などに利用している。地域福祉についての情報交換、相互協力が出来ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入所というよりも、面談を進める中でホームの雰囲気を見に来ていただいたり、必要であれば体験入所していただく。趣味を共有出来る利用者や、出身地が近い利用者をきっかけに馴染んでいけるように席を近づけるなどの工夫をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、花の水やりなどできることを手伝ってもらう事で自信を回復していただくように働きかけている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の発するサインを出来る限りくみ取れるよう努めている。多様な要求に対して個別ケアしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見、要望は出来る限りケアプランに取り込んでいくよう心がけている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一般の変化や入院によるADLの低下、症状の進行などが見られる場合は、その都度カンファレンスを行い、計画を見直している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物が2フロアに分かれている利点を生かし、入居者、家族の希望を聞いた上で1～2F間の居室移動を行うなどしている。	○	今後ショートステイも取り入れ、幅広い対応をしていきたいと考える。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームで提携している医師もいるが、往診医などは極力本人と家族の希望を聞き、それに沿った形で医療機関と連携していけるよう努めている。かかりつけ医が利用者は入所の際に一緒にホームに往診に来てくれるケースは多い。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナルケアに対して検討している状況である。だが、脳梗塞を頻発し入退院を繰り返している利用者があり、そちらの家族とは今後の方針についての意見統一が図れている。		今後も検討を継続して個別に実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は書類棚に保管し、必要時に取り出す用にしている。特に介助を要する利用者へのトイレ誘導の際の声かけには注意している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な散歩の時間が決まっているが、その時間以外にも散歩の好きな利用者には職員が付き添い、一日に数度近所を散策している。一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなど利用者が手伝える事を共に行う。定期的 にやさそばなどの皆で調理できるメニューを取り入れ参 加していただくようにしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や状況に応じて午前浴を行ったりもして いる。また、できる限りゆったり湯船につかってリラックス していただけるようにする事を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	「自分が必要とされている」と感じていただく為に、調理 や花の水やり、掃除などを手伝っていただいている。天 気の良い日は毎日散歩に出かけ、気分転換を図ってい る。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	天気の良い日には、車いすの利用者も交えて毎日散 歩している。希望によっては買い物を手伝ってもら方 もいる。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない ケアに取り組んでいる	行動の制限をしない為にも、職員が居室に施錠するこ とはない。利用者が平穏に過ごしている日や、職員全 員が関われる時間帯などは玄関に施錠していないよう に心がけている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署に依頼し、定期的に防災訓練を行うよう 心がけている。建物のオーナーがすぐ近所に住んでい たり、施設に対しての地域の方々の理解も深まってきて いる為、有事の際には協力を得られる予定。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたメニューに沿って食事を作っている為、栄養バランスはとれている。水分量も時間毎に記録し、摂取量の確保と把握に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた題材の手作りカレンダーを飾ったり、極力利用者の手が加わっているものを飾るようにしている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具類を自宅から持ち込んでいただく。介護する上ではベッドの方が利便性はあるが、今までの生活歴の中で布団をつかっていた方には出来る限り布団で就寝していただくようにするなど、出来る限りリラックスしていただけるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	やすらぎの杜
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	237-0077 横須賀市浜見台2-14-1
記入者名 (管理者)	北澤ゆう子
記入日	平成 19 年 11 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立者の全員が、地域に根付いた何らかの活動をしている為、地域に強く目を向けた理念をもち、充実した医療、保険、福祉のコミュニティの形成を目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念とは別に介護の理念を掲げ、その実現に向け日々努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	近隣施設や地域住民にホームのしおりなどを配布し、当ホームの理念や内部状況を知っていただくようにしている。	○	今後ホーム便りも発行したい。その中で当ホームの理念も含め、より多くのことをアナウンスしていけたらと思う。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地元住民の職員が多くいることも幸いし、朝のゴミ捨て、散歩の時などに、ご近所の方と毎日挨拶を交わしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校から生徒が、本の読み聞かせと合唱に来てくれるなど世代を超えた交流が出来てきている。	○	先日老人会の会長と会合を持った際に、今後の老人会との関わりについて有意義に語り合うことができた。行事に参加する事だけでなく、お手伝いできる部分は積極的に参加し、より交流を深めたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者から当ホームが設立した事でもしもの時の安心感ができたとお声を頂けた。また、あまり福祉に詳しくない高齢者も多い為、そういった方々が気軽に立ち寄り相談できる雰囲気を作れるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回は初めての外部評価であった。指摘を受けた点についてミーティングで話し合い改善に努めた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣3ホームと行政、民生委員を交えての情報交換、意見交換、要望提出が非常に有意義に行われている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本年度から市内グループホーム連絡協議会の役員に就任したことで、行政と接する機会が増え、今まで以上に意見交換が出来ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在2Fの利用者が成年後見人制度の適用を進めており、参考にしていきたい。また、これを機会に地域包括センターとの結びつきを持って行きたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対起こさないという気概があり、職員も徹底できている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書の2～3項目毎に利用者、家族に疑問点を聞き取りしている。極力納得していただける説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、苦情対応責任者により苦情を聞き取る体制をとっている。	○	現在まで特に大きな苦情はないが、今後何う機会があれば運営に反映していく事が事業所の義務だと感じている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所する家族は普段の暮らしぶりを多く知りたいと願っているはずなので、来訪時はお出迎えだけでなく、出来る限り側に付き生活状況などを伝えるようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見を聞く機会を設けると共に、職員と家族の距離を縮めるチャンスと捉えている。また、苦情受け付け窓口も設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロアミーティングと、3ヶ月に一度を目安に行う全体ミーティングで職員の意見を吸い上げる機会を設けている。また、必要に応じて施設長との個人面談を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常の勤務シフトとは別に施設長、事務長がおり、家族対応や必要時にはヘルパーとして介護にあたるなど柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	居室担当を作り各利用者、家族とより密接な関係を作るようにしている。個人面談などで極力職員の不満などを把握し離職を防ぐようにはしているが、やむを得ず離職の際には引き継ぎを必ず行うようにしている。また、各担当だけでなく全スタッフが情報を共有できるよう努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員の確保が困難である為、常に職員全体の介護レベルの向上を急務と捉えている。パート職員もOJTだけでなく、外部研修に参加してもらっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護タクシー会社と強く協力し合っており、通院介助時、外出行事の際などに利用している。地域福祉についての情報交換、相互協力が出来ている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要に応じて個人面談を行い、抱える問題点、ストレスについてのヒアリングを行っている。また、行事などで多くのスタッフが集まった後などは、会社主催で食事会を行ったりストレス解消の場を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	パート職員でも本人の状況や希望次第で正社員として登用できるよう個別に話している。目標意識、達成意識をもってもらえるようパート社員の昇給も必要に応じて随時行っている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前面談は必ず複数の職員で行い、多角的なヒアリングをしていけるように心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族との入居前面談を綿密に行うよう心がけている。必要であれば複数回行い、一度ではうかがい知れない不安感などを聞き取るようにしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族、介護者の3者にとってグループホームでの対応が適当であるかを考え相談を受けるようにしている。重度者には利用申込時に併せて特養にも申込をしていただくようにしている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入所というよりも、面談を進める中でホームの雰囲気を来ていただいたり、必要であれば体験入所していただく。趣味を共有出来る利用者や、出身地が近い利用者をきっかけに馴染んでいけるように席を近づけるなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、花の水やりなどできることを手伝ってもらう事で自信を回復していただくように働きかけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院時のお手伝いや週末の来訪などご家族にも極力関わっていただくように声をかけている。家族と利用者が疎遠になりすぎないようにしながら、その際に色々と相談を行えたりもしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	介護者が関わることでご家族と利用者新しい距離感が提案できたかと思っている。2者だけでは行き詰まってしまう関係も、私たち第3者が介入することで解決していけるよう心がけている。昼食会などを催し、双方に働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元からの利用者が多い為、ドライブに行き景色を楽しんでいただいたり、近くのレストランに食事に行ったりと慣れ親しんだ地域と離れていないんだという感覚を持っていただけるよう努めている。また、老人会などのご友人も面会に来て下さる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士の席を近くに、少しでも会話が出来るようにしている。テレビが好きな方もいらっしゃるの、見やすいように席を設けたところ、談笑しながら楽しんでいただいている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居による退居などの場合も、退所後定期的に転居先へ連絡、訪問している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の発するサインを出来る限りくみ取れるよう努めている。多様な要求に対して個別ケアしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴などを用紙に記入してもらうようにしている。家族からの聞き取りが主であるが、それを元に利用者本人にもインタビューするようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全体的な記録である業務日誌と個人の記録のケース記録、各人のバイタルチェック・水分摂取量を表に記入することで、把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見、要望は出来る限りケアプランに取り込んでいくよう心がけている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院によるADLの低下、症状の進行などが見られる方は、都度カンファレンスを行い、計画を見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録である業務日誌と別に個人の生活履歴などをケース記録として記録し、全体で情報を共有している。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物が2フロアに分かれている利点を生かし、入居者、家族の希望を聞いた上で1～2F間の居室移動を行うなどしている。	○	今後ショートステイも取り入れ、幅広い対応をしていきたいと考える。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小学校からの読み聞かせ会や、ボランティアによるコーラス会などの娯楽面と、万一の災害時の為の防災訓練などの安全面の両面から協力してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	車いすの利用者の受診時や、利用者の外出行事の際に介護タクシーを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	以前に比べ、地域包括支援センターへ連絡、相談をする機会が増えた。他のユニットの利用者についての相談がほとんどであったが、これからは今まで以上に強く連携をとっていけるはずであり、今後必ず当ユニットでも役立ていけるはずである。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームで提携している医師もいるが、往診医などは極力本人と家族の希望を聞き、それに沿った形で医療機関と連携していけるよう努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師で認知症の中核・周辺症状に詳しい方がいる為、対応方法など相談に乗っていただいている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格を持っている職員がいる為、気軽に相談できている。また、容態変化などにも対応できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の入院時には必ず職員が付き添っているので、その際に第一次的な情報交換を行っている。また、職員もこまめに見舞うようにし、医師、看護師から情報提供をしていただいている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナルケアに対して検討している状況である。だが、脳梗塞を頻発し入退院を繰り返している利用者があり、そちらの家族とは今後の方針についての意見統一が図れている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度利用者に対してグループホームでの対応が本当に本人の為になっているのか、また今後はどうであるのか等の問題点はある。重度利用者に対しては、医師の意見なども参考に今後より医療と密接な施設への転居も視野に入れている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には主に家族、ケアマネから普段の生活状況などの情報を提供してもらっている。退居の際も転居先の施設などへ情報提供を行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は書類棚に保管し、必要時に取り出す用にしている。特に介助を要する利用者へのトイレ誘導の際の声かけには注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々のレクや散歩、買い物などの際は利用者に希望を聞くようにしている。散歩と買い物の時間が重なる為、どちらに行きたいか。買い物に行かれた方には何が買いたいかな等を聞き、自身で判断していただいている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な散歩の時間が決まっているが、その時間以外にも散歩の好きな利用者には職員が付き添い、一日に数度近所を散策している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者全員が女性の為、特におしゃれには気を配っている。定期的に染髪している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなど利用者が手伝える事を共に行う。定期的にやさそばなどの皆で調理できるメニューを取り入れ参加していただくようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	果物をおやつにする時は、利用者に好きなものを聞いて買うようにしている。買い物の際にも好きなものを買っていただくようにしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限り長い期間自立で排泄できるように支援している。排泄パターンを把握し、適切なタイミングで声かけするよう努めている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や状況に応じて午前浴を行ったりもしている。また、できる限りゆったり湯船につかってリラックスしていただけるようにする事を心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝、起床時間は一人一人に合わせたものになっている。夜間共有フロアでテレビ鑑賞する方には、他社の安眠の為音量を小さめにさせていただくなどもしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「自分が必要とされている」と感じていただく為に、調理や花の水やり、掃除などを手伝っていただいている。天気の良い日は毎日散歩に出かけ、気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と買い物に行く時に、2～3,000円持って行き、好きなものを買っていただけるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、車いすの利用者も交えて毎日散歩している。希望によっては買い物を手伝ってもらう方もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に外出行事を行うようにしている。地域の夏祭り、花火大会に参加したり、市内の植物園に出かけたりしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜遅い時間の訴えに関してはご家族のご心配を考慮し状況次第で対応しているが、日中などは自由に電話を使っている。また、定期的にお手紙を出している利用者もあり、職員もサポートしている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が来た時には、必ず職員が明るく声かけし、お茶出しするように心がけている。また、玄関周りに草花を多くあしらひ明るく訪問しやすい雰囲気作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の手引きがあり、利用者の身体の高齢に関わる場合等の特例を除き身体拘束を行っていない。また、やむを得ず行う場合には早期の解除を心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動の制限をしない為にも、職員が居室に施錠することはない。利用者が平穏に過ごしている日や、職員全員が関われる時間帯などは玄関に施錠していないように心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室でお過ごしの方も定期的に居室に声かけと顔出しをするようにしている。できる限り共有フロアで過ごしていただけるよう働きかけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	塗り絵が好きな方で居室内に色鉛筆を保管している方もいる。刃物類も職員が気を配りながら可能な方には自室保管していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	正社員、パート職員関係なく救急救命講習に参加してもらうよう働きかけている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救急救命講習に多くの職員が参加している。また、今後も継続して参加をしていく。		
	○災害対策	地域の消防署と連携し、定期的に防災訓練を行うとともに、		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防者に依頼し、定期的に防災訓練を行うよう心がけている。建物のオーナーがすぐ近所に住んでいたりと、施設に対しての地域の方々の理解も深まってきている為、有事の際には協力を得られるはずである。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時には起き得る危険について説明をしている。一例を挙げるならば、居室内での転倒である。利用者の好きなように過ごしていただく事で、私たちの目が完全に行き届かないこともあることを説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時に全員のバイタルチェックを行い記録に残している。合わせて一日の水分摂取量も記録し、いち早く体調変化に気づけるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎のファイルに処方箋を整理している。処方箋を読み不明なところは医師に直接聞き、確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表によるチェックを毎日行うと共にトイレから出てきた時に排便について何うようにしている。起床時に牛乳を飲んでいただいたり、芋類のメニューを増やすなどの工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食時は夜勤者、昼食時は遅番の職員が中心となっていくなど、シフトの中で担当者を決め、そのスタッフが中心となり行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたメニューに沿って食事を作っている為、栄養バランスはとれている。水分量も時間毎に記録し、摂取量の確保と把握に努めている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の資料を掲示し、さらに手洗いなどの衛生面でも職員が消毒剤を使うなどして注意している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は発注して週2回届くようになっているが、届いた時にいつ使うのかメモをつけ、古い食材が残らないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気を作る為に、玄関周りに花を飾るなど入りやすい空間作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた題材の手作りカレンダーを飾ったり、極力利用者の手が加わっているものを飾るようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの見やすい位置にイスを並べ雑談しながら見てもらえるようにしている。また、席位置も仲の良い方が隣同士になるよう工夫している。	○	共有フロアに2～3人掛けのソファを設置したい。スペースが許せば畳なども敷いて和の空間も欲しいのだが・・・
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具類を自宅から持ち込んでいただく。介護する上ではベッドの方が利便性はあるが、今までの生活歴の中で布団をつかっていた方には出来る限り布団で就寝していただくようにするなど、出来る限りリラックスしていただけるよう努めている。		
	○換気・空調の配慮			

84	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめな換気を心がけている。夏場は冷房が効きすぎないように特に注意を払っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレにも手すりを設置し、自立でできることは見守りで対応している。トイレの手すりも可動式のものを設置し、利用者に応じて使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には各自のネームプレートを掲げている。トイレのドアの外側には案内表示、トイレの内側と洗面所には手洗い推奨の張り紙をし、それを認識して下さる方が多い。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りに多くの草花を植え、目で楽しむと共に、土いじりを楽しんでもらっている。	○	利用者によって好き嫌いがあるのですぐに実現することは難しいが、いつかはペットを飼ってみたい。利用者への癒しと、皆で世話をすることで良い効果が生まれるのでは、と考えている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、家族、職員の笑顔が絶えないグループホームを目指している。

一般的にはグループホームは静かなことが是とされているが、私たちは活気に溢れた空間の中で利用者・家族と付き合っていきたいと考えている。もちろん一人ひとりの時間を大切にすることも静かな時間も必要だが、居室で一人で過ごす時間よりも、皆で共有する時間を多く提供したいと考えている。

ともすると介護現場では「危ないからしちやダメ!」「危ないから行っちゃダメ!」などの言葉が横行しやすいが、職員が関わり、共に行動し「一緒にやってみよう!」「一緒に行ってみよう!」と利用者の訴えを生かしプラス方向に転じていきたい。時にわがままと思ってしまいがちな事も、その人の個性と捉え、自己表現できる良さと考えていきたい。人生の大先輩として利用者と接し、職員も生き方・老いを学ばせていただく場であると考え、尊敬しあえる関係を築くことが笑いの絶えないグループホームへの第一歩だと考え、努めている。